



親子でいつでも立ち寄れる「おでかけひろば@あみーご」



自宅や空き家を地域にひらくと、
ひとが集い、つながりが育れます。
多様な居場所を生み出すトラまちの
「地域共生のいえ」と「空き家等地域貢献活用」。
今号は、このしくみを活用して、
それぞれのスタイルで家をひらく皆さんをご紹介します。



地域の人も寄りあえるサービス「タガヤセ大蔵」



緩やかに熟成された 信頼関係が地域に広がる

地域共生のいえ「ルツの家」におでかけひろば@あみーご^(※)を移転して、昨年9月で丸10年になりました。あみーごは自分たちが当時子育てについて困っていたことを良い形で糧にして次へつなげたいという想いと、みんなで見守りながら子どもは遊びの中で育っていきな、という想いから、コンセプトは「放牧」にしました(笑)。

ここへ移る前は、保育園をお借りして週1回の「子育てサロン」をしていました。小さなお子さんとお母さんのための場ですから「ハレ」の日だけではなく、何でもない毎日の中で、いつでもふらっと立ち寄れる「ケ」の場所にしていきたいと当初から考えていました。その意味では、この家をお借りできるというお話があったのは、とても幸運でした。庭が利用できるという点もありましたが、それ以上に大家さん

のお人柄が大きかったと思います。

最初に訪ねたとき、この家には誰もトゲトゲできない場の力があるなと感じたんです。大家さんは、私たちが温かく見守りながら、さりげなく手伝ってくださりました。この家だからこそ、誰もが訪れやすい場所にできたんだと思います。

行政の補助も受けられたことで、夢中ではあったけどゆっくりと子育てに関する事業を育てることができました。大きな事業目標に急ピッチで挑戦するやり方もありますが、自分たちでもできそうな小さなことから始めて、無理せず長く続けて小さい輪を大きくしていくという方法もあると思うんです。特に地域に根ざしてなにかをやる場合、じっくりと熟成された信頼関係は大事ですから。

NPO法人化も活動を10年以上続けてから進めました。その間かつての利用者の中には、スタッフとして活躍してくれている人もいます。また、町会のお祭りにも長年参加させていただいているおかげで、多くの方に知ってもらえるようになりました。今は、これまでの延長線上に、子育て支援とコ・ワーキングを両立できるおでかけひろばの活動などを展開し始めたところです。これらの活動もじっくり熟成させて、いろいろな生き方や働き方、自分が幸せになれるあり方をナチュラルに選択できるお手伝いをしていきたいなと思っています。

※月～金曜日の10時～15時(祝日を除く)。事前申込み不要。無料でご利用できます。「おでかけひろば」は、児童福祉法に基づく「地域子育て支援拠点事業」の世田谷区の事業名称。



おでかけひろば@あみーご
いしやま きょうこ
石山 恭子 さん

NPO法人子育て支援グループamigo理事長。
子育て中にボランティアとしてあみーごに関わり、
2007年より現職。モットーは「地域に転がるシアワセのタネを探しながら人生いつでも更新中！」



資源は未来からの預かりもの

タガヤセ大蔵は、駅から離れた古い木造賃貸アパートをサービス^(※)と地域の人も寄りあえる場としてリノベーションした場所で、2階には子どものための創作アートのアトリエがあります。

きっかけは、介護が必要になった私の家族が、過ごしてきた地域で自分らしく暮らせないだろうかという想いと、社会のお荷物にも見えてしまう空き家が結びつくのではないかという思いつきを、当時お世話になっていた介護事業者に相談したことでした。

その後、ケアのチームがそのまま空き家活用事業のチームになったのですが、空間の話をしていると「居心地のよさ」への感覚が一般の人と福祉のプロでは異なることに気が付きました。介護施設としての安全・安心と、私たちがふらっと寄りたくなるような空間は違うんですね。

価値観の違う者同士が事業を進めてこられたのは、お互いの「違い」を認め合いながらも大切にしたいことは変わらなかったからなのかもしれません。

「近所に喫茶店ができた」という勘違いがきっかけでボランティアとして関わってくださる一人暮らしの方から自転車や電車で来てくださる方まで、共感を基にタガヤセ大蔵に関わってくださる方は様々です。私自身、少し離れたところに住まいがあるので、地

縁をベースとした地域活動には関わっていませんが、昨年、家族が自宅で亡くなり、近隣の皆様にご挨拶をさせていただいたときに、思い出話と共に「良いことをしていますね」と言っていただき、ああやってよかったなと思いました。反対や無関心でなく、地域の方が温かく見守ってくださっていることに本当にうれしく思いました。

大蔵というまちは、団地の建て替えや道路の整備で街の風景が変化していきます。「資源は過去からの授かりものではなく未来からの預かりもの」という言葉があるそうです。自分の生まれたまちが多様なひとにとって温かな居心地の良いまちになるように、今後もしることができることを、できる範囲で、ゆるやかに続けていきたいなと思います。



タガヤセ大蔵
あんどう かつのぶ
安藤 勝信 さん

株式会社アンディート代表取締役。
リノベーションを通じて暮らしの中にひとのゆるやかなつながりをつくる、まちの大家さん。
世田谷生まれ、一児の父。

家をひらいて、自分流に楽しむ。

さまざまな人たちに 背中をおされて

林さん 皆さんが「いえ」をひらくことになった経緯をお話してもらえますか？

近藤さん 僕は4年ほど前に世田谷区に引っ越してきたんですけど、家を建てる時に、彫刻家の曾祖父のアトリエがあった土地を祖母から引き継いだんです。せっかくだから自分の大切に思う価値観を体现するような家、「環境とアート」を大事にした家をつくらうと思いました。それを僕ら家族だけで独り占めするのは分不相応だし、もったいないんじゃないかという気がして(笑)。

成見さん それはすごいですね！

近藤さん あと、曾祖父のアトリエだった頃にも、作家や友人などいろんな人が出入りしていて楽しかったという話を祖母から聞いていて、そんな場所ができたらいなという気持ちもあったんです。それと、以前に小さなギャラリースペース的なものを持ったこともあったんですが、そこが家からも会社からも遠くて通いづらくて(笑)。そんな思いが重なって、ある晩、急に「よし、いえをひらこう！」と思い立って、夜中にいろいろリサーチしていたら、「地域共生のいえ」というのがあるのを知って、トラまち(当財団)の存在を知ったんです。世田谷ってすごい。こんな仕組みがあるんだ！と感動しました(笑)。それからいろいろの方にヒアリングしてKYODO HOUSEをつくるに至りました。

林さん なるほど。

成見さん それに比べて僕らは、なんか、いつの間にかやることになっていました(笑)。

玲子さん そうそう。流れにノッてしまった。みたいなところがありますね。

成見さん 一昨年に開催された「せたがやD.I.Y道場」というワークショップにふたりで参加したことがきっかけなんです。僕たちの関心があったテーマが「空き家を活用する」で、同じグループのメンバーで後日集まったときに、トラまちから「空き家ゼミナール」っていうのがあるよって教えてもらって参加しました。そこで講師を務められている近藤さんや安藤さん(タガヤセ大蔵主宰)のお話をうかがったんですが、

一般的に「空き家をひらく」とか「まちづくり」などは、「地域のために」みたいな感覚を持ってやっている人が多いのかなと思っていたんです。でも、おふたりは**自分が欲しい暮らしを手に入れるためにやっていて、それが結果的に地域のためにもなっている**、みたいな…。「自分」が先になっているというのが、すごくいいなと思いました。

タテやヨコだけでない ナナメの関係性が広がる

玲子さん 私たちは実家が地方にあるので、子育てしていても助けしてくれる知り合いが周りになくて…。誰か手を貸してくれないかなあ、と思っていたんです。➤

つながる・ひろがる・暮らし・シゴト

林さん それで成見さんご夫婦は、自らその「場」をつくっちゃったということですね。

玲子さん そうなんです(笑)。

成見さん 両親が近くにいないなら、家族と同じくらい**仲の良い近所さんができればいい**んですよね。

近藤さん 僕のところも成見さんたちとそこの理由は重なっていますね。共働きで、他に頼れない分、ルームメートを入れたり、近所仲間を頼ったり…。

玲子さん うちもふかさわの台所に関わってくださっている方々が、息子を預かってくれたり、保育園に迎えに行ってくれたりとかしていただいています。そんな親戚的な感じの方たちができたのは、いえをひらいたからこそだと思います。

います。それと、空き家のオーナーさんの家がふかさわの台所のすぐそばにあるんですが、オーナーさんのお母様がうちの息子のおばあちゃんのような気持ちでいてくださっていて、息子が顔を出すとすぐ喜んでくれるんです。

成見さん そういう関係性って、**欲しいたり、お金を払って築けるものではない**ので、すごくうれしいですよね。

林さん 本当ですね。すごくいい。近藤さんはどうですか？ひとのつながりとか、ネットワークの広がりは？

近藤さん そうですね。先日、仕事で年末に知り合った福島酒蔵の女将から「KYODO HOUSEで酒蔵のイベントをやりましょう」とお誘いがあったのですが、うちだけでやるのはもったい

まちづくりプランナーとして世田谷で長年活動されている林泰義さんに、地域共生のいえ「KYODO HOUSE」のオーナーの近藤ヒデノリさん、空き家を活用して「ふかさわの台所」を運営されている成見敏晃さん・玲子さんご夫妻にお話をうかがっていただきました。

ないと思い、松陰神社の牡蠣屋さんと経堂の蕎麦屋さんに声をかけて、2日間連続で日本酒イベントを開いてみたり。もう、飲んで食べて楽しんじゃって(笑)。そんなふうに、結構**行き当たりばったり**で「緑」と「タイミング」が合ったときにイベントをやっている感じなんですけど、4年経った今は、僕が特に何か企画しなくても、いろいろな方々が紹介してくれたり、楽しい話が舞い込んでくるようになりました。

林さん 「緑」と「タイミング」が合えばイベントを開くんですね(笑)。

近藤さん はい。参加者も子どもから高齢の方まで世代もさまざまで、参加する方の国籍も広がっています。子どもの小学校の「おやじの会」に入っ

たのですが、そこでもおもしろいパパ友たちがたくさんいて…。KYODO HOUSEには、そんなおやじの会つながりだったり、同級生、同僚、得意先の人なんかもワジャワシャ来てくれるんですよ。一度家に来てくれた人と仕事をしたり、何か一緒にするのはやりやすい、すごく楽しいですよね。いえをひらいたことで、いろいろなものが入ってくる。思いもしないモノが迷い込んだり、「1部屋空いているよ」と言ったら外国人が入ってきたり。世田谷は人がたくさんいるから、**つながればいろいろなものが入ってくる**。で、知らないモノは誰かが持って帰ったりして出て行く。そういうお金を介さない関係や循環が生まれるのがおもしろいです。



KYODO HOUSE
こんどう
近藤 ヒデノリさん

2015年に世田谷区経堂にオープンした自宅兼シェアスペース「KYODO HOUSE」。次代につなぐ都会の持続可能で豊かな暮らし「Art of Living」をテーマに、地域にひらいた大人と子どもの秘密基地として、都会・地方・アート・アーバンパーマカルチャー・ギフトエコノミーなど多様な関係をつなぐイベントやワークショップを行っている。



ふかさわの台所
なるみ としあき
成見 敏晃さん
玲子さん

2018年に世田谷区深沢にオープンしたコミュニティスペース「ふかさわの台所」。「みんなで作ると楽しい、みんなで食べると美味しい」がコンセプト。おでかけひろばを運営するNPO法人せたがや子育てネット、地域の方々、近隣の大学生と連携しながら、誰もが集える地域の居場所づくりを進めている。



まちづくりプランナー
はやし やすし
林 泰義さん

1969年、都市コンサルティングの計画技術研究所を設立。現在は特定非営利活動法人玉川まちづくりハウスの運営委員を務め、NPOが市民の暮らしに浸透していくことに取り組んでいる。これらの活動を通じて1997年、日本都市計画学会賞(石川賞)を受賞した。

無理はしない。で、 これからも楽しみながら。

成見さん そういえば、近藤さんは以前ギャラリーでも同じようにイベントとかをやられてましたよね。その頃と、今のKYODO HOUSEの違いはどんなことですか。

近藤さん 住まいとギャラリーのある場所との距離かな。でも一番は、自分の家を使っているの、**無理をしないで続けていける**ということですね。

成見さん うちも「おでかけひろば すぶ一ん」が週3日あるので、無理せず、やりたいことをやらせてもらっています。今までは仕事とプライベートの2つだったのが、ふかさわの台所を始めた今は、**仕事でもない、プライベートでもない**、というのができて、自分でもおもしろいなあと思います。ちなみに、ふ

かさわの台所の朝は、すぶ一んの方々とゆるやかなコーヒータムからはじまることが多くて、これが僕にとってはなかなか贅沢な時間なんです。僕の仕事は設計で、その仕事は誰かのためにやるわけです。他人に心地いい空間をつくるみたいな…。それとは別に、ふかさわの台所でやっていることとして、**自分のために仕事をするみたいな感覚**があって楽しいですね。

林さん 「無理をしないで楽しみながら」がキーワードになるのかな。皆さん、今後はどのように考えていますか？

玲子さん 「平日の夜ご飯をみんなで食べられる場ができていいな」というのが、ふかさわの台所でやりたかったことなんです。たとえば、うちのように子どものいる共働きの家庭や、おひとりで食事を作って食べている方がいれば、「じゃあ、一緒に食べましょう」みたいなことができれば、と思っていたん

ですけど…。**お互いの関係性をきちんと築いて**いかないと、なかなか入っていただくことはできないですし、ふかさわの台所の存在が浸透して認知されるようになるのには、まだ時間がかかるかと、この1年で強く感じました。

成見さん やっぱ仲良くなりたよね。僕らが今やっているイベントは同世代に偏りがちなんで、もっと**いろいろな世代の人たちが気軽に来られるような場所**にしたいですね。どういう仕組みにしたらいかが模索中です。

玲子さん 来年はふかさわの台所にもうひとつ機能が追加しているかもね。近藤さんはどうですか？

近藤さん KYODO HOUSEはおもしろいので、無理せず続けていこうかなと思っていますが、このまえ、地方でものすごく大きい空き家があるのをネットで見て、**思わず妄想が広がりました**(笑)。そんな、ことは別の場所をつ

くるのもおもしろそうだな、と思ったり、仲間のつながりがどんどん増えて、みんなで何かをやろうとか、50歳を超えたらまた違う暮らし方をするのかな、など日々妄想しています。

林さん ありがとうございます。最近、今日お会いした近藤さん、成見さんご夫妻のほかにも、まちに積極的に関わる若い人たちとお会いする機会があります。現場をしっかりと見て、関わる人たちと上手に橋渡しをしているのを見ていて、**まちづくりは皆さんのような感性によってどんどん広がっていく**んだなと感じますね。まちに関わる世代や関わり方が多様化していくのを見てると、これからがとても楽しみです。引き続きご自身が楽しみながら、世田谷を盛り上げていってほしいと思います。

近藤さん・成見さん はい。ありがとうございます。今度はぜひ、林さんのお話も詳しく聞かせてください。

家を地域にひらく

自宅や空き家などプライベートな住まいの空間を、自分たちだけの生活の場以外に、地域の交流・活動など外に向かって活用すること。トラまちは、「地域の方々が集いつながる」場や「そこに暮らす人たちそれぞれの地域への想いを形にして活動をする」場を、所有者、活動団体とともに創り、その取り組みをサポートしています。



地域共生のいえ

オーナーが自宅を活用して行う活動です。トラまちが開設までをサポートします。オーナーの地域への想いをもとに、22のスタイルの場が生まれています。あなたの家も、まちの居場所にしませんか。



空き家等地域貢献活用

トラまちでは、空き家を地域に役立てたいオーナーと空き家を活用して地域に貢献する事業を行いたい団体の相談窓口を行っています。これまで15か所の空き家などを活用した拠点が誕生しています。

「空き家等地域貢献活用助成」のお知らせ

区内の空き家で、地域貢献を企画する団体を募集します。採択された団体は、改修工事費など区の助成金が受けられます。

募集開始 4月1日より **問合せ** 空き家等地域貢献活用担当 ☎03-6379-1621

最大
300万円/件

世田谷トラストまちづくり(トラまち)は、
ひと・まち・自然 が共生するまちの実現に向けて
市民が主体となったまちづくり活動の推進、
身近な自然や歴史的環境の保全等に取り組んでいます。



自宅や空き家を活用
した居場所づくり



小さな森
オープンガーデン



民有緑地の保全と活用



身近な自然とふれあうイベントの開催

● お気軽に下記イベントへご参加(お申し込み)ください。

トラストまちづくり会員 募集中!

会費種別と年会費

- 個人賛助会員 1年会員 1□1,000円 3年会員 1□3,000円
- 家族賛助会員 1年会員 1□2,000円 3年会員 1□6,000円
- 法人賛助会員 1年会員 1□10,000円 3年会員 1□30,000円
- 子ども会員 小学校在学期間1,000円
- 学校会員 無料 ※世田谷区内の小中学校が対象

● 4/26(金)までに新規ご入会の方



オリジナル
てぬぐい
プレゼント!!

武蔵野の雑木林の面影を伝えるコナラや
クヌギなどをモチーフにしてデザインした
オリジナルの日本てぬぐいです。

イベント情報

『小さな森』オープンガーデン

- ① 5月8日(水) 尾山台・鳥を呼ぶ小さな森
「実の生る木」と「草花」のバランスを意識して
配置したお庭です。
申込締切: 4月10日(必着)
- ② 5月10日(金) 北烏山三丁目小さな森
煉瓦と草花と濃い緑が素敵なお庭です。
申込締切: 4月15日(必着)
- ③ 5月15日(水) 羽根木一丁目小さな森
生きものとの共生を考え、ゼロから造り上げた
エコガーデン。
申込締切: 4月15日(必着)
- ④ 5月23日(木) 用賀・和みの庭小さな森
和風と洋風の2つのタイプを楽しめるお庭です。
申込締切: 4月22日(必着)
- ⑤ 5月26日(日) 成城四丁目小さな森
山野草が素敵なお庭のアイデア溢れる
ビオトープのお庭です。
申込締切: 5月13日(必着)
- ⑥ 5月26日(日) 成城三丁目小さな森
国分寺崖線の斜面地を生かした自然豊かなお庭です。
申込不要 場所: 成城3-9-3 当日直接現地へ。

時間: ①～④午後1時30分～3時
⑤⑥午前10時30分～正午
定員: ①～⑤抽選20名 ⑥どなたでも
場所: ①～⑤は当選者に所在地をご案内します。

① ビジターセンターさくらカフェ

成城さくらフェスティバル会場と猪股庭園、
旧山田邸とをつなぐシールラリー、竹細工、
子ども向け自然クラフト、カフェ(有料)ほか
[日時] 4月7日(日) 午前10時～午後3時
[場所] 成城4-29-1 ☎03-3789-6111

② 猪股庭園 春のお茶席・生け花展示

[日時] 4月20日(土)、21日(日)
午前11時～午後3時
[場所] 成城5-12-19
[参加費] 一般500円/会員400円
[定員] 各日先着100名



③ 竹林のお手入れ体験 要申込 ～筍の間引き

[日時] 4月20日(土) ①午前10時30分～正午
②午後1時30分～3時
[場所] 喜多見五丁目竹山市民緑地(喜多見5-20)
[参加費] 一般: 大人500円、子ども200円
会員: 大人400円、子ども100円
※未就学児無料
[定員] 抽選各20名 [申込締切] 4月10日(必着)

④ フラワーランド・春の花まつり

種だんごづくり等の体験コーナー、
ハーブティーコーナー、ガーデンツアーほか
[日時] 5月11日(土)、12日(日)
午前10時～午後3時
[場所] 瀬田5-30-1



イベント③と「小さな森」オープンガーデン

イベント参加ご希望の方は、電話・ハガキ・ファ
クシミリ(FAX)で ①イベント名 ②参加者全員
の住所・氏名・電話番号・年齢 ③代表者名 ④ト
ラストまちづくり会員の方は会員番号 ⑤FAXで
お申し込みの方は返信先番号を明記し下記まで
お申し込みください。
※申し込み多数の場合は、区内在住の方を優先します。

問合せ・申込先

(一財)世田谷トラストまちづくり
〒156-0043 世田谷区松原6-3-5 (梅丘分庁舎1階)
☎03-6379-1624 (平日午前8時30分～午後5時)
FAX03-6379-4233

※当財団にお寄せいただいた個人情報は、お寄せいただいたイベ
ントに関する通知及び各種お問い合わせに対する回答、当財団に関
する情報提供などに必要な範囲で利用します。それ以外は、第三
者に提供することはありません。また、開示請求等の場合は個人
情報保護管理者(☎03-6379-4300)までお問い合わせください。
上記、利用目的に同意をした上で、お申し込みをお願いします。

..... 広告スペース